

赤潮・貧酸素情報（９）

平成２７年６月８日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

６月８日に有害プランクトン調査を行った結果、苅田南港内で有害プランクトンのヘテロシグマ・アカシオの赤潮が確認されています。

<有害プランクトンの状況>

- 苅田南港内でヘテロシグマ・アカシオの赤潮（表層で海水 1ml 中に 596,000 細胞）が認められ、港内では着色（くらいあか）が認められます。苅田本港においても同種による赤潮（表層で海水 1ml 中に 14,800 細胞）が確認されました。なお、苅田本港においては表層にカレニア・ミキモトイ（海水 1ml 中に 700 細胞）が確認されています。
- その他の漁港内でも 1～77 細胞/ml の範囲で、カレニア・ミキモトイが確認されています。
- ヘテロシグマ・アカシオは、主に 5～6 月頃に発生し、10,000 細胞/ml 以上で魚がへい死することがあります。
- カレニア・ミキモトイは、数～数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- カレニア・ミキモトイは、増殖初期は中層（主に 5m 層前後）で増殖する性質を持っていますので、海面からの観察では海水の着色が判別しにくい種類です。

<貧酸素の状況>

- 調査した漁港内では貧酸素は確認されませんでした。

<今後の状況>

- 今後も天候次第ではさらに増殖する可能性がありますので、着色が認められていない漁港内でも十分注意してください。
- 着色が認められていない漁港内でも魚介類への影響を回避するために、漁獲後、早めの出荷をお願いします。
- 研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報に十分ご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：俵積田、野副）までご連絡下さい。

6/8調査結果

番号	採水場所	採水層 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	カニア・ミキモイ (細胞数/海水1ml)	ヘテロシグマ・アカンオ (細胞数/海水1ml)
①	柄杓田漁港	0	20.4	27.92	2	—
		B-1	21.0	29.64	10	—
②	恒見漁港	0	20.9	24.54	2	—
		B-1	21.6	30.75	1	—
③	松山漁港	0	21.9	30.31	2	—
		B-1	21.8	30.33	0	—
④	苅田本港	0	22.0	27.76	700	14,800
		B-1	22.5	30.73	150	—
⑤	苅田南港	0	21.5	29.52	25	596,000
		5	21.8	31.00	183	—
		B-1	21.7	31.13	182	—
⑥	蓑島漁港	0	21.9	27.43	77	—
		B-1	21.9	27.50	1	—
⑦	稲童漁港	0	21.6	20.74	0	—
		B-1	22.6	29.90	2	—
⑧	宇島漁港	0	22.5	29.56	1	—
		B-1	23.7	30.27	0	—
⑨	吉富漁港	0	22.5	23.64	3	—
		B-1	23.7	28.84	4	—

